消費者行動

経済主体	目的	手段	価格
企業	利潤最大化	生産量あるいは要素投入量を調整	所与（pricetaker）
個人	財を購入することで満足度を高める ＝効用を最大化	購買量	所与

効用（utility）とは

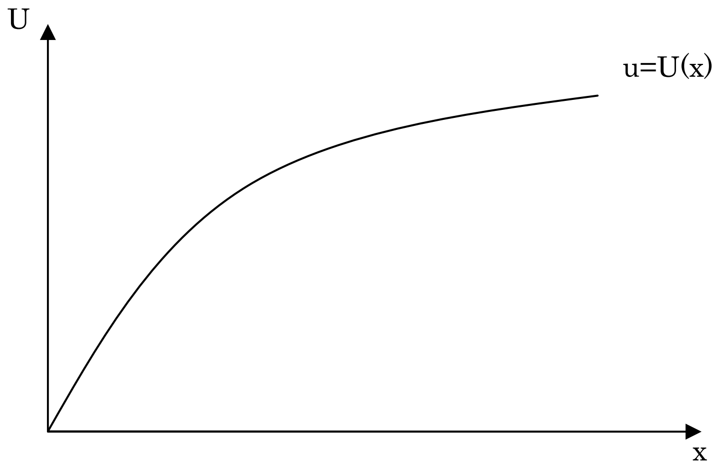
効用：個人の満足の程度

効用関数

・財の消費から個人が得る満足の程度を数値で表したもの。

・通常効用関数Uは財 x の増加関数。

・ただし財 1 単位の追加的な消費から得られる効用（＝限界効用）は次第に減少していく⇒限界効用逓減の法則



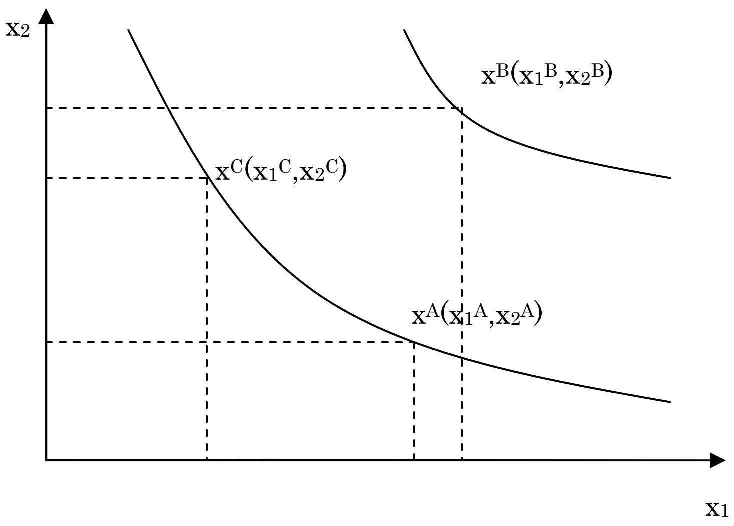
２財の場合の効用

消費者はいくつかの財の組合せから効用を得る。今、x_1 と x_2 の２財を考える。２財の組合せから消費者が得る効用を $u=U(x_1,x_2)$ で書くとする。消費計画 $x^A=(x_1^A,x_2^A)$ と $x^B=(x_1^B,x_2^B)$ の比較では x^B の方が x_1,x_2 とも消費量が多いのでだと分かる $u^A<u^B$ だとわかる。他方 x^A と x^C では u^A と u^C の大小はわからない。もし $u^A>u^C$ ならこの消費者は x^A を x^C より選好すると考えられる。もし $u^A=u^C$ ならば x^A と x^C は無差別であると考えられる.

そのような効用が等しい点をつないだ曲線を無差別曲線(indifferent curve)と呼ぶ。

IC の性質

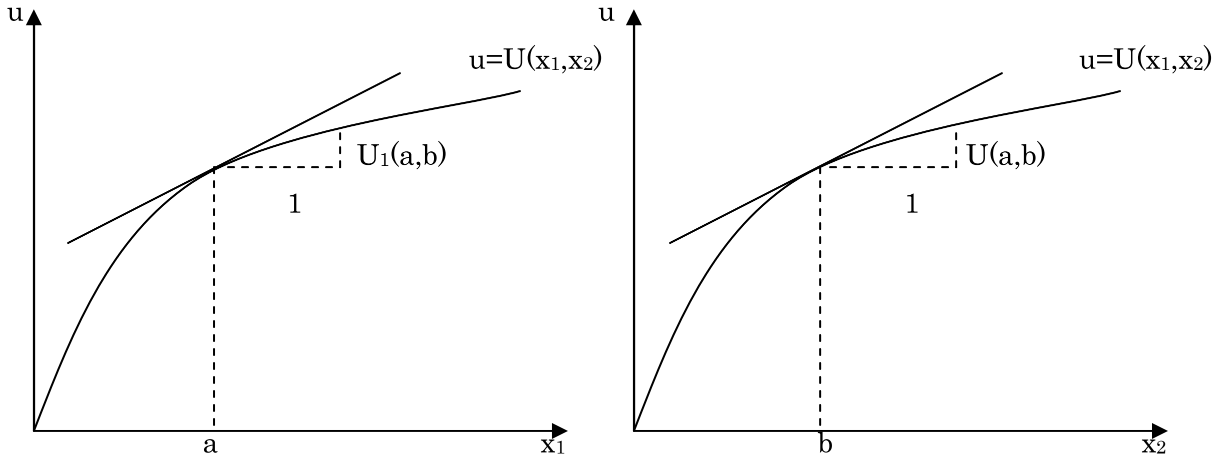
- 右下がり
- 交わらない
- 右上方の IC ほどより高い効用を示す。
- 原点に対して凸である



このような性質が出てくる理由を考える。

効用関数 $u=U(x_1,x_2)$と x_1,x_2 の増減との関係を考える。今、x_2 を b に固定して x_1 のみを動かすと x_1 と U の関係は図のようにかける。このときの x_1 の限界効用は u の偏微分に等しい$U_1(x_1,x_2)=\frac{\partial U(x_1,x_2)}{\partial x_1}$

他方 x_1 を a に固定して x_2 のみを動かすと x_2 と U の関係は図のようにかける。X_2 の限界効用は$U_2(x_1,x_2)=\frac{\partial U(x_1,x_2)}{\partial x_2}$



これを任意の a,b で考えると x_1,x_2,u の関係は次のように書ける x_1,x_2,u は山型のような関数になる効用が等しい点はこの図では効用関数の等高線として書くことができる

⇒この等高線を x_1,x_2 平面上に投影しえたものが IC である。